

一つの提案

名古屋市消防局長

井上晴世

日本は比較的災害の多い国といわれています。私たちの国に災害が多いのは、日本列島の位置が世界でも有数の変動帯に位置していることと、ユーラシア大陸と太平洋との間にあるその地域の気象が複雑だということに関連しています。

四季おりおりに変化する日本の風土は、私達に景観の美を楽しませてくれますが、豪雨によってひきおこされる山崩れや土石流、台風などの大自然の猛威がしばしば襲ってきます。また、地震や火山活動も活発で、昔から人々は生命を脅かされ、大きな被害を受けてきました。

これらは天災と呼ばれ人力ではどうすることもできないから、あきらめるより仕方がないと思われてきました。確かに自然の猛威ともいうべき地震や台風などの自然現象は、現在の科学をもってしても地震が起らないようにしたり、台風をつぶしたりすることはできません。

しかし、私たちは自然現象そのものではなく、それから起こる災害を少しでも防止軽減することができるのです。

地震が起きてても家が倒れず、また、火災も起きなければそれは地面が大きく揺れるだけであって、地震災害ではありません。

大地震と震災は別なものなのです。人間

の力で大地震をなくすことはできなくても、震災はなくすことができるのです。全くなくすことはできなくても、少なくとも被害は大幅に減らすことはできるはずです。

昨年未曾有の災害をもたらした阪神・淡路大震災で、消防水利の使用不可能が生じ、このような大震災時における消防水利の確保の問題が大きくクローズアップされました。その対策として耐震性防火水槽の増設をはじめ、種々の方策が現在推進されています。そこで一つの提案ですが、耐震性防火水槽に小型動力消防ポンプを組み込みワンタッチの簡単な操作で誰でも取り扱える方式にしたらどうかと思います。この動力消防ポンプ組込み式防火水槽は、常時ワンタッチで起動することができるとともにホースも結合などの操作をすることなく延長するだけで放水体制ができる簡易な方式はいかがでしょうか、こういった簡単な操作のものなら付近住民の皆様でも使えると思います。

現在の社会は科学技術の急激な発達によって築かれています。国全体に神経や血管のように交通・通信・電力網などが複雑にはりめぐらされており、特に都会は複雑で大規模なものとなっています。都市は生きているという表現がよく使われます。もし、一

部に支障が起これば全体が麻痺してしまう
恐れがあります。

災害はいつどこで起こるかわからない。
また、どんな災害が起こるかもわかりま

せん。日頃から国や自治体と個人個人の防
災に果たすべき役割を有機的に結びあい、
官民一体となってこそ防災の実があがると
考えられます。

